

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、10月31日-11月1日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を5.25～5.50%に据え置くことを決定しました。決定は全会一致で、2会合連続での利上げ見送りとなりました。同時に、最近の米国債利回りの上昇が経済とインフレに影響を与える可能性があるとし唆しました。

同時に公表された声明文では、前回からの変更は最小限にとどまりました。経済活動は「力強い(strong)ペースで拡大」とし、9月会合時点の「堅調(solid)なペース」から表現を上方修正したほか、「家計と企業向けの金融・与信状況の引き締めは、経済活動や雇用、インフレに影響を及ぼす公算が大きい」と記述し、前回の声明文で与信状況に言及していた部分に「金融」という文言を新たに追加しました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、12月の次回FOMCで利上げを決定することはあり得るとした一方、引き締め局面が終了した可能性も認めました。インフレ率を目標の2%に戻す上で金融政策が十分に抑制的かどうか現時点では判断が難しいとのスタンスを示しています。

市場の反応

一部で警戒のあった「タカ派的な見送り」ではなかったことに加え、同日公表された経済指標が悪化したことから、FRBが利上げを終了したとの見方が強まり、市場に安心感が広がりました。

NYダウの終値は前日比221.71ドル高の33,274.58ドルに上昇し、10年債利回りは前日比0.20%低い4.73%で終わりました。

為替市場では、10年債利回りの低下に加え、歴史的な円安水準に達したことによる当局からの為替介入の警戒感もあり、前日の1ドル=151円台から150円台まで円高ドル安が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

今回のFOMCを波乱なく通過したことは、株式や債券にプラスの影響をもたらしました。次回の12月FOMCで追加の利上げを行う可能性は残っているものの、国債利回りの大幅な上昇により、金融引き締め目標が達成に近づいたとの考えが優勢になりつつあります。

そのため、FF金利先物市場では、FRBが利上げサイクルを終了し、来年6月までに利下げを開始することを期待しています。

ただし、インフレ率は低下基調にあるものの、依然2%の目標を上回っていることから、今後も発表されるデータ次第で変化する状況が続くと予想します。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
12/12-13	FOMC
12/14	ECB理事会
12/18-19	日銀金融政策決定会合

出所:Bloomberg